

オーディオミキサー

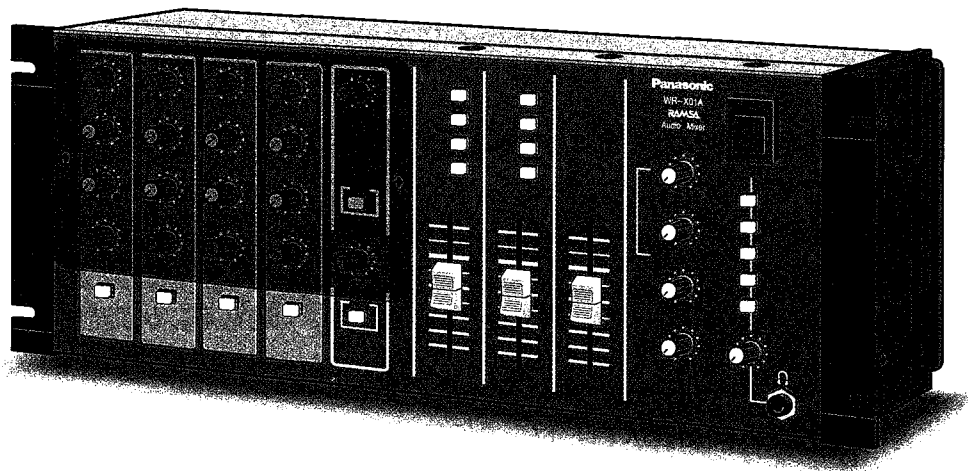
品番 **WR-X01A**

取扱説明書
(工事説明付)

- この説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと大切に保存し、必要なときお読みください。
- 保証書は必ず「販売店名・お買い上げ日」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

RAMSA



[この写真はラックアングルを出荷状態より取り付けなおしたものです。]

上手に使って上手に節約

このたびは、オーディオミキサーをお買い上げいただきまして、
まことにありがとうございました。

もくじ

● 取扱説明	
安全上のご注意	I、II
使用上のお願い	1
操作上のお願い	1
特長	2
各部の名称と働き／信号の概略流れ図例	3、4
各部の名称と働き／接続のしかた	5、6
アクリルカバーの取り付けかた	7
代表的な特性	7
入力音量つまみのレベル適合ポジションについて	8
レベルダイヤグラム	9
ブロックダイヤグラム	10
● 工事説明	
設置のしかた	11、12
調整のしかた(調整の必要がある場合)	13
メイン出力L・Rおよびモノラル出力1を平衡回路に変更する場合	14
外観寸法図	15
定格	16
付属品	16
保証とアフターサービス	裏表紙

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

(下記は絵表示の一例です。)



このような絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。

安全上のご注意

必ずお守りください

警告

異物を入れない



禁止

水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。

電源コードを熱器具に近づけない



禁止

コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因となります。

分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因となります。

- 修理や点検は販売店にご連絡ください。

電源コードを傷つけない



禁止

重いものをのせたり、はさんだりするとコードが傷つき、火災や感電の原因となります。

- 修理は販売店にご連絡ください。

電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く



コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

- 抜くときは電源プラグを持って抜いてください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災の原因となります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない



禁止

感電の原因となります。

ぶらさがらない、足場がわりにしない



禁止

落下などで、けがの原因となります。

注意

コネクター抜き差しは、電源を切ってから行う



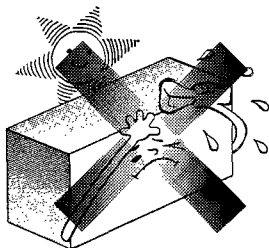
クリック音でスピーカーが破損する原因となります。

使用上のお願い

●本機の設置場所は

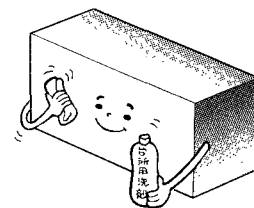
直射日光の当る所や温風吹出口近くは避けてください。また、湿気、ほこりおよび振動の多い場所に設置すると故障の原因になることがあります。

- 壁面に設置のときは、ぶらさがったり、足場がわりにしないでください。



●お手入れ

- ベンジン、シンナーは避けてください。ケースが変形したり、変色することがあります。
- ケースの汚れは乾いた布でふいてください。ひどい汚れは、水か台所用洗剤を少し布につけてふき、あとはからぶきしておきます。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。



操作上のお願い

- 本機の底面には、コンプレッサ (COMP.) 並びにミュージックミュート (MUTE) の設定ボリュームが内蔵されておりますが、本機を設置調整または再調整する以外は、さわらないでください。

特長

本機は、本格的なミキサーに匹敵する、コンパクトで多チャンネルのミキサーでありながら、簡単な操作を実現しています。

■ 便利な機能

- モノラル入力には、原音をほとんどそこなわずに過大入力によるひずみを防ぐコンプレッサが内蔵されています。
- ラックマウントアングルを設置条件に合わせて様々に利用できます。また、入出力の接続は天面/背面/底面と変更可能です。
- モノラル入力に接続されたマイクの音で自動的にステレオ入力からの音楽レベルをレベルダウンするステレオ・インプット・ミュートも内蔵されています。
- 通常使用時にさわる必要のない部分をカバーする、アクリルカバーも付属しています。

■ 入力回路

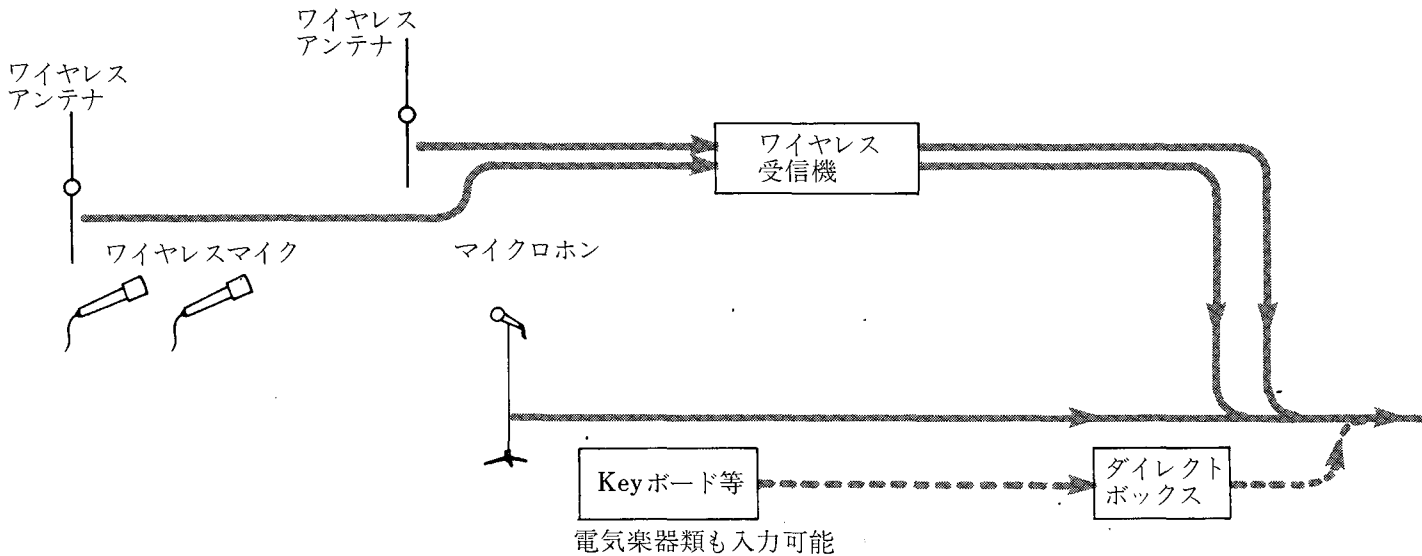
- マイク入力 (-60dB) からライン入力 (-6 dB) レベルまで入力切替なしで幅広く対応できる、モノラル入力4回路並びに、ステレオライン入力が6回路と、2台のレコードプレーヤが接続できます。
- モノラル入力では、1つのつまみで、連動調整できるデュアルレベルコントロール機能により、アンプ入力ゲインとメインセクション送りの音量調節が簡単にでき、ひずみの少ない、SN比の有利なレベル設定ができます。また、入力コネクタは、キャノンタイプコネクタを採用しています。
- 各モノラル入力毎に、450Hz (MID LOW)、3.5kHz (MID HIGH) のイコライザを備えており、ボーカルのふくよかさ、抜けの良さを自由に演出できます。また、エコーマシン送り (ECHO SEND) も備えておりマイク毎のエコー調整もできます。
- ステレオ入力は、60mmストロークのフェーダを使ってメイン系統へミキシングでき、かつ、ステレオ入力を2系統に分けているため、2台のレコードプレーヤ間等の系統間に於けるクロスフェーダ操作ができます。
- ステレオ入力のフェーダ (STEREO IN ①、②) には、マイクロスイッチが組み込まれ、フェーダ操作で外部接続機器のスタート、ストップ等のリモートコントロールに応用できます。
- はね返り音のモニタに有効な外部モニタ (EXT IN) 入力も1回路用意されています。

■ 出力回路

- 80Hz (Low) と12kHz (High) のイコライザもあるメインセクションのフェーダは、60mmストロークのフェーダでこれに連動するL・Rのステレオメインアウトと、モノラルアウトを2回路装備しています。
- モノラルアウトの1回路は、メインフェーダの前より (プリフェーダ) モノラル化し、もう1回路は、メインフェーダの後 (ポストフェーダ) でモノラル化して取り出しています。これは、別会場送り等に使用できて大変便利です。
- モニタ出力は、ステレオヘッドホン出力が1回路と外部モニタ用ステレオ出力が1回路あり、さらに録音ステレオ出力も2回路用意しています。
- レベル監視には、SIGNAL、PEAK、CLIPを表示する、3ポイントLEDインジケータも採用され、使い勝手も充分考慮されています。(プリフェーダミキシングレベルを監視しています。)

各部の名称と働き/信号の概略流れ図例

※ 外部機器への系統は例として掲載しています。



■モノラル入力部

エコーセンドつまみ [ECHO]

- エコーマシン、リバーブマシンへの送り出しに使用します。
- ポストボリューム信号のミキシングレベルを調節します。

入力コライザつまみ [MID HIGH - 3.5k / MID LOW - 450]

- モノラル入力信号の音質補正をします。
- 調節範囲
MID HIGH (中高域) : 3.5kHz ± 12dB
ボーカルのはぎれの良さ、明りょう度を調節します。
MID LOW (中低域) : 450Hz ± 12dB
ボーカルのはふくよかさ、低域の厚みを調節します。

入力音量つまみ [LEVEL]

- モノラル入力音量を調節します。
- ※ 入力ゲインとメインセクション送り出しレベルの調節が連動しているため、マイクからラインまで幅広い入力調節ができます。

詳しいレベル適合ポジションは9ページご参照

MONO IN 1

モノ入力チャンネルスイッチ [MONO IN 1 (2, 3, 4)]

- メインセクションへの信号送り出しのON-OFFに使用します。
- ※ "OFF" のときは、エコーセンドもOFFになります。

モノ入力端子に接続された機器名をシールにより表示するスペースです。(シールは付属)

■モノラル入力 トータルコントロール部

エコーリターンつまみ [ECHO RETURN]

- エコーリターン信号をL、Rメインセクションにミキシングします。

ステレオ・インプット・ミュート [STEREO IN MUTE]

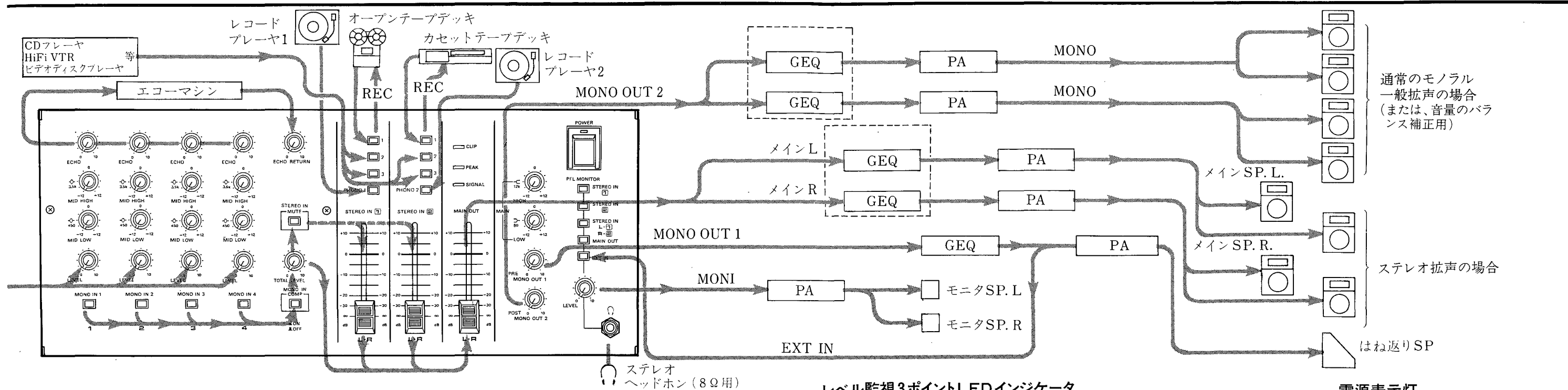
- このスイッチを"ON"にしておくと、モノラル入力に信号が入った場合にステレオ入力系統のレベルを自動的に下げ、モノラル入力に信号がなくなった場合にステレオ入力系統のレベルを約5秒後に自動的に復帰させます。
- ※ "OFF" にしてある場合は、ステレオ・インプット・ミュートは働きません。
- ミューティング(MUTE)のレベル設定ができます。方法については14ページをご覧ください。

モノラル入力トータル音量つまみ [LEVEL]

- モノラル入力1~4のトータル音量をメインセクションに送り出します。

モノラルインプットコンプレッサスイッチ [COMP]

- このスイッチを"ON"にしておくと、モノラル入力に信号が入った場合にコンプレッサがかかり過大入力によるひずみを防ぎます。
- (注1) コンプレッサとは、ある一定の比率で音を圧縮させるものです。
- コンプレッサのレベル設定ができます。方法については14ページをご覧ください。



■ステレオ入力部

ステレオ入力切替スイッチ [1, 2, 3 PHONO]

- AV機器類の出力をメイン出力に送り出すための選択スイッチです。
- 系統毎(STEREO IN ①、②)にAV機器3台、レコードプレーヤー1台の合計4台のうち1台の出力を選択できます。

(注2) AV機器類とは
CDプレーヤー、VHD、レーザーディスクプレーヤー、Hi-Fi VTR、カセットテープデッキ、オープンテープデッキなど

※ステレオ入力ジャックに接続される機器の出力レベルは、ステレオ入力音量フェーダを"0dB"にしたとき最適音量が得られるように各々の機器の音量ボリューム側で調節してください。

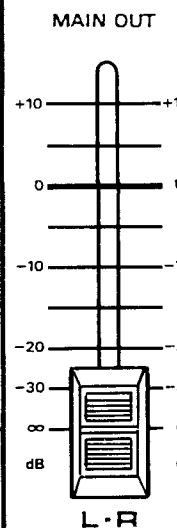
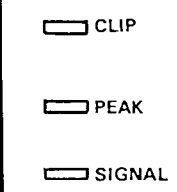
※これらのスイッチは、いずれか一つしか選択できません。

ステレオ入力ジャックに接続された機器名をシールにより表示するスペースです。(シールは付属)

ステレオ入力音量フェーダ [STEREO IN ①(②)]

- ステレオ入力の信号をメイン出力へ送り出すときに使用します。
- 標準レベル"0dB"付近で使用します。ノイズ・レベルバランスのとれている位置です。
- マイクロスイッチが内蔵されています。フェーダ操作で外部接続機器のスタート、ストップ等のリモートコントロールに応用できます。(接続内容は5ページをご覧ください。)

■メイン出力部



ステレオメイン音量フェーダ [MAIN OUT]

- メイン出力L、Rを送り出すときに使用します。
- 標準レベル"0dB"付近で使用します。ノイズ・レベルバランスのとれている位置です。

モノラル出力1音量つまみ [PRE MONO OUT 1]

- L、R出力のプリフェーダ信号をミキシングし、モノラルにして送り出します。
- ステレオメイン音量フェーダの送り出しレベルに影響されことなく、モノラル出力1が送り出せます。

モノラル出力2音量つまみ [POST MONO OUT 2]

- L、R出力のポストフェーダ信号をミキシングし、モノラルにして送り出します。
- ステレオメイン音量フェーダの送り出しレベルを"∞"にすると、モノラル出力2の出力も出なくなります。

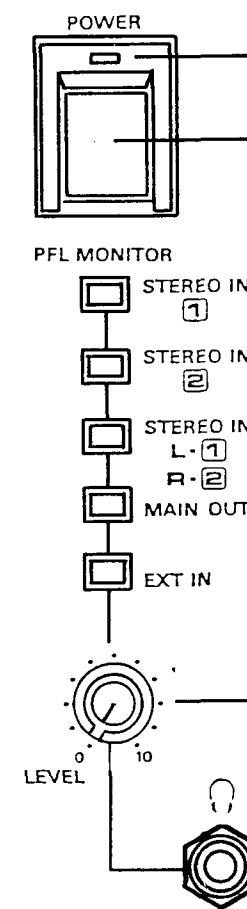
レベル監視3ポイントLEDインジケータ [CLIP、PEAK、SIGNAL]

- CLIP(赤色)
：+20dBで点灯。
ステレオメインフェーダへの入力がひずんでいることを警告します。点灯したらステレオ入力音量フェーダを"∞"またはモノラル入力トータル音量つまみを"0"にします。
- PEAK(橙色)
：+14dBで点灯。
入力信号の瞬間的なピークを警告します。ステレオ入力音量フェーダおよびモノラル入力トータル音量つまみでときどき点灯する程度に調節します。
- SIGNAL(緑色)
：-20dBで点灯。
信号がきているかの確認に使用します。
※ステレオメイン音量フェーダを"∞"にしても、その手前まで信号がきていることが確認できます。

出カイコライザつまみ [MAIN HIGH < 12k / LOW > 80]

- トータル出力信号の音質補正をします。
- 調節範囲
HIGH(高域)：12kHz±12dB
きらびやかな高域からソフトな高域までを調節できます。
※HIGHのL、R調整が連動しています。
- LOW(低域)：80Hz±12dB
量感ある低域からタイトな低域までを調節できます。
※LOWのL、R調整が連動しています。

■電源スイッチ/ モニタ選択部



電源表示灯

電源スイッチ[POWER]

モニタ選択スイッチ

- (注3)
- [PFL MONITOR]
- ヘッドホンでもモニタするための選択スイッチです。
 - ※これらのスイッチは、いずれか一つしか選択できません。
 - STEREO IN ①：ステレオ入力①のプリフェーダ信号をモニタできます。
 - STEREO IN ②：ステレオ入力②のプリフェーダ信号をモニタできます。
 - STEREO IN：ステレオ入力①の信号がL-①、R-②から、ステレオ入力②の信号がRから同時にモニタできます。
 - MAIN OUT：ステレオメイン出力のプリフェーダ信号をモニタできます。
 - EXT IN：外部モニタ入力ジャックに入力された信号をモニタできます。

- ※上図では、はね返りスピーカに送り出した信号と同一信号内容がモニタできます。
- (注3) PFL：プリフェーダリスンです。

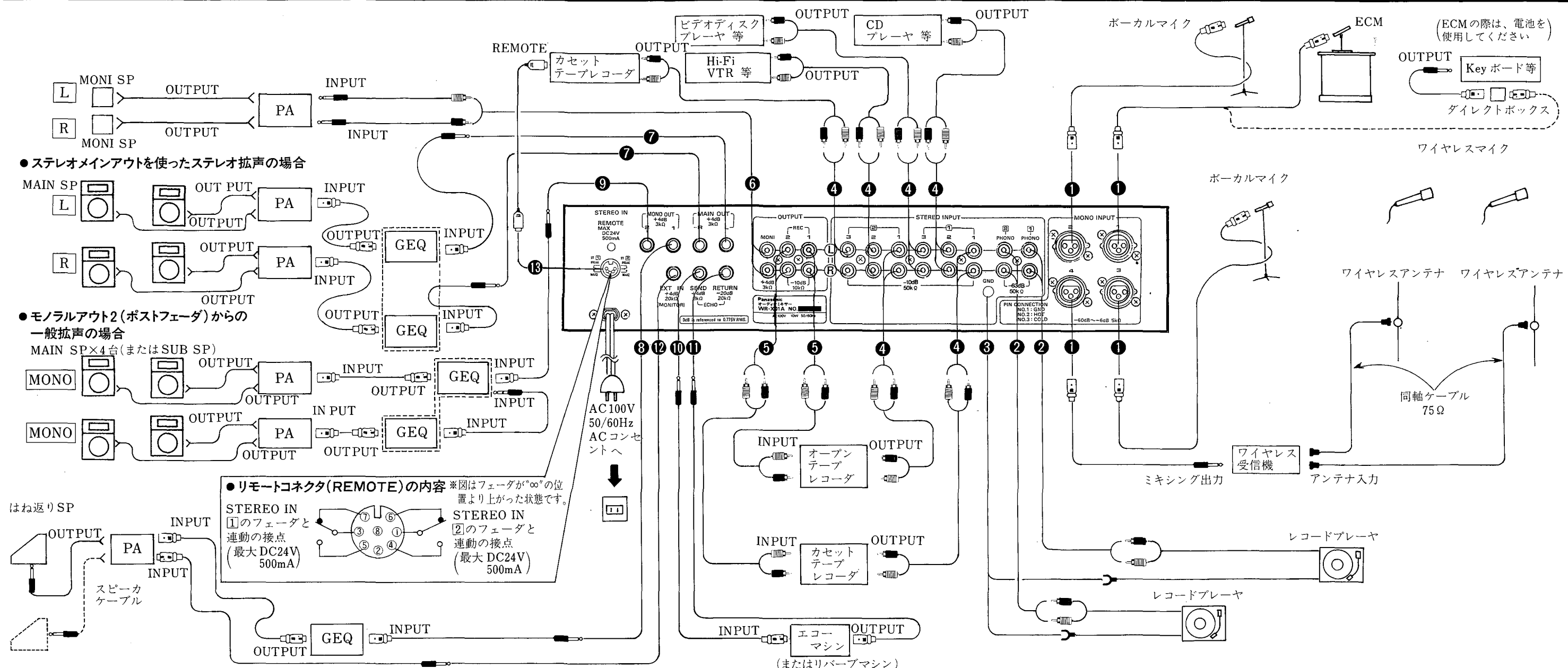
モニタ音量つまみ[LEVEL]

- モニタ選択スイッチで選択された信号の音量を調節できます。
- このつまみで、ヘッドホンおよびモニタ出力の両方の信号が調整されます。

ヘッドホンジャック[]

- 8Ω 500mW(または600Ω 7mW)1回路
- 大形単頭プラグで接続。
- ステレオヘッドホンを接続します。

各部の名称と働き/接続のしかた



省略語・用語解説

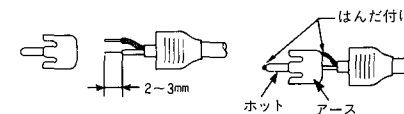
- PA : パワーアンプ
- GEQ : グラフィックイコライザ
- MONI SP : モニタスピーカ
- MAIN SP : メインスピーカ
- SUB SP : 補助スピーカ
- MONO : モノラル
- Key ボード : 鍵盤楽器
- ダイレクトボックス : ライン送りにするとき使うもので、インピーダンスマッチング、平衡・不平衡変換をするものです。
- ECM : エレクトレット・コンデンサ・マイクロホン

使用プラグの名称

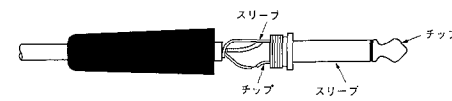
-大型複式プラグ
-大型単頭プラグ
-XLR-3-11C相当
-XLR-3-12C相当
-ピンプラグ
-DIN 8Pプラグ
-BNCコネクタプラグ

各プラグへの接続

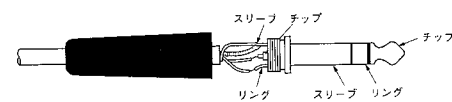
●ピンプラグ



●大型単頭プラグ

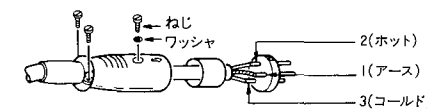


●大型複式プラグ



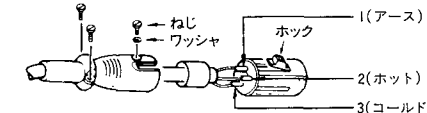
●キャノンタイプコネクタ(XLR-3-12C相当)

*キャノンコネクタは、接続する機器のホット、コールドのピン番号を確認して、接続してください。

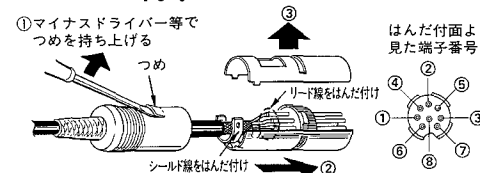


●キャノンタイプコネクタ(XLR-3-11C相当)

*キャノンコネクタは、接続する機器のホット、コールドのピン番号を確認して、接続してください。



●8P DIN コネクタ



<p>① モノラル 入力コネクタ [MONO INPUT 1、2、3、4]</p> <p>4 回路 (ピン番号 2 ホット 3 コールド 1 アース)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 入力レベル -60~-6 dB (最大-70~+10dB) インピーダンス 5kΩ 電子バランス入力 ● キヤノンコネクタ(XLR-3-12C)相当で接続 ● マイクロホンやモノラルのライン機器が 4 台まで接続できます。 <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コンデンサマイクロホンは、電池を使用して下さい。 ● Keyボードや電子楽器類は、ダイレクトボックスを通して接続して下さい。 	<p>⑦ メイン 出力ジャック [MAIN OUT L、R]</p> <p>ステレオ 1 回路</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 出力レベル +4 dB インピーダンス 3kΩ 不平衡 ● 単頭プラグで接続 ● 本機のミキシングステレオ信号を送り出します。 <p>※L/R出力共別売出力トランスを追加可能、600Ωの平衡出力として取り出せます。その際の接続は複式プラグとなります。</p>
<p>② フォノ 入力ジャック [PHONO 1、2]</p> <p>ステレオ 2 回路</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 入力レベル MIN -63dB インピーダンス 50kΩ 不平衡 ● ピンプラグで接続 ● レコードプレーヤが 2 台接続できます。 <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カートリッジはMM型を使用して下さい。 	<p>⑧ モノラル出力 1 ジャック [MONO OUT 1]</p> <p>1 回路 (プリフェーダ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 出力レベル +4 dB インピーダンス 3kΩ 不平衡 ● 単頭プラグで接続 <p>※別売出力トランスを追加可能。600Ω平衡出力として取り出せます。その際接続は複式プラグとなります。</p>
<p>③ アース端子 [GND]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● レコードプレーヤは、アースを必ず接続して下さい。 	<p>⑨ モノラル出力 2 ジャック [MONO OUT 2]</p> <p>1 回路 (ポストフェーダ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 出力レベル +4 dB インピーダンス 3kΩ 不平衡 ● 単頭プラグで接続 ● 本機のミキシングモノラル信号を送り出します。
<p>④ ステレオ 入力ジャック [STEREO INPUT 1 1・2・3 2 1・2・3]</p> <p>ステレオ 6 回路</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 入力レベル -10dB インピーダンス 50kΩ 不平衡 ● ピンプラグで接続 ● CDプレーヤ・テープレコーダ HiFi VTR・ビデオディスクプレーヤ等のAV機器が 6 台まで接続できます。 	<p>⑩ エコーセンド ジャック [ECHO SEND]</p> <p>1 回路</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 出力レベル +4 dB インピーダンス 3kΩ 不平衡 ● 単頭プラグで接続 ● エコーマシン・リバーブマシン等へ送出し、モノラル入力系統のエコーをかけるのに使用します。
<p>⑤ 録音出力 ジャック [REC1・2]</p> <p>ステレオ 2 回路</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 出力レベル -10dB インピーダンス 10kΩ 不平衡 ● ピンプラグで接続 <p>ステレオのカセットテープレコーダ等に録音できます。 ステレオメイン音量フェーダの前の信号を送り出しています。</p>	<p>⑪ エコーリターン ジャック [ECHO RETURN]</p> <p>1 回路</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 入力レベル -20dB インピーダンス 20kΩ 不平衡 ● 単頭プラグで接続 ● エコーマシン出力の信号を受けます。
<p>⑥ モニタ 出力ジャック [MONI]</p> <p>ステレオ 1 回路</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 出力レベル +4 dB インピーダンス 3kΩ 不平衡 ● ピンプラグで接続 ● 外部にパワーアンプを用意して、スピーカによるステレオモニタをする際に使用します。 ● 主にミキサー室のモニタ用に使用します。 <p>※ヘッドホン出力と同一系統の出力です。</p>	<p>⑫ 外部モニタ 入力 [EXT IN (MONITOR)]</p> <p>1 回路</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 入力レベル +4 dB インピーダンス 20kΩ 不平衡 ● 単頭プラグで接続 ● はね返りの音等、別系統からの外部モニタをするものです。
		<p>⑬ リモート コネクタ [STEREO IN REMOTE]</p> <p>2 回路 (トランスファ接点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 制御容量(1回路当り) MAX DC 24V 500mAまで制御可能 ● 8P DINコネクタで接続 <p>※ステレオ入力音量フェーダの上げ下げと連動してマイクロスイッチが働き、外部リモコン制御ができます。</p> <p>※接続される機器により制御信号を受ける端子番号がちがいます。相手側の機器を確認して接続してください。</p>

機器接続時のご注意

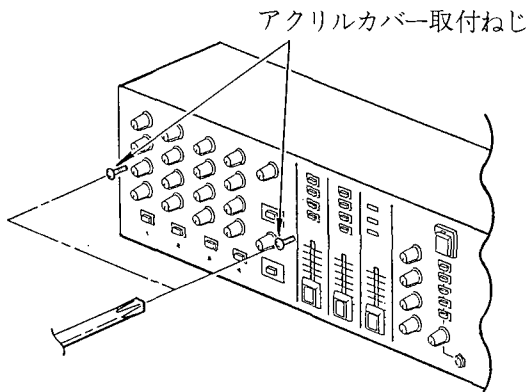
- ハイ・インピーダンスマイクロホンを接続する場合は、ケーブルの長さを10m以下でご使用ください。ケーブルの容量成分によって高域特性が低下することがあります。
- ロー・インピーダンスマイクロホン(150Ω、250Ωまたは600Ω)を使用する場合は、50m程度の長さまでは実用上の支障は生じません。
- レコードプレーヤを接続する場合は、必ずアース端子にレコードプレーヤのアース線を接続してください。
- エコーマシンなどと本機との間で入・出力ケーブルを接続する場合、入・出力のシールド線は互いに離れないように配線してください。ミキサーとの間で配線ループができると外部ノイズを受けやすくなります。
- スピーカ線と入力線を近づけますと入・出力の組み合わせにより機器の動作が不安定になり、発振する場合がありますので近づけないでください。

アクリルカバーの取り付けかた

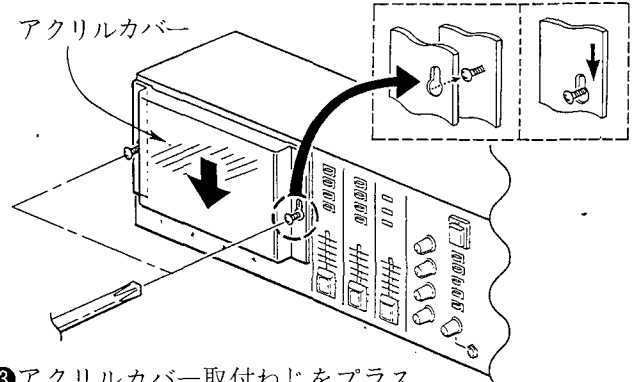
※モノラル入力および、モノラル入力トータルコントロールのスイッチ、つまみ類をセットした後、付属のアクリルカバーを取り付けますと、スイッチやつまみを保護し、不要なつまみ操作を防げます。また、アクリルカバーを取り付けますと、モノインプットチャンネルスイッチ1～4およびコンプレッサスイッチの入/切とステレオ音量フェーダ、ステレオメイン音量フェーダの操作で使用できることを促せます。

● 取付方法

① アクリルカバー取付ねじをプラスドライバーでゆるめます。



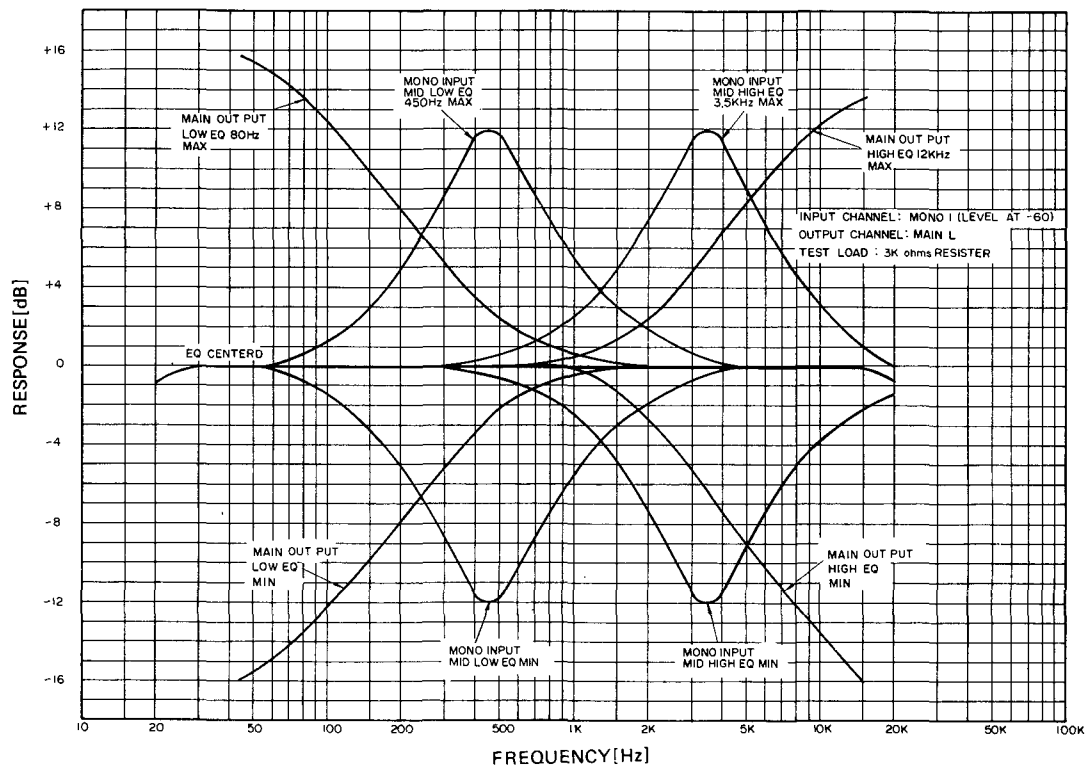
② カバーの穴をアクリルカバー取付ねじに合わせ、矢印の方向にスライドさせます。



③ アクリルカバー取付ねじをプラスドライバーで締めて固定します。

※ 締めすぎるとアクリルカバーが割れることがありますので締めすぎないようにお願いします。

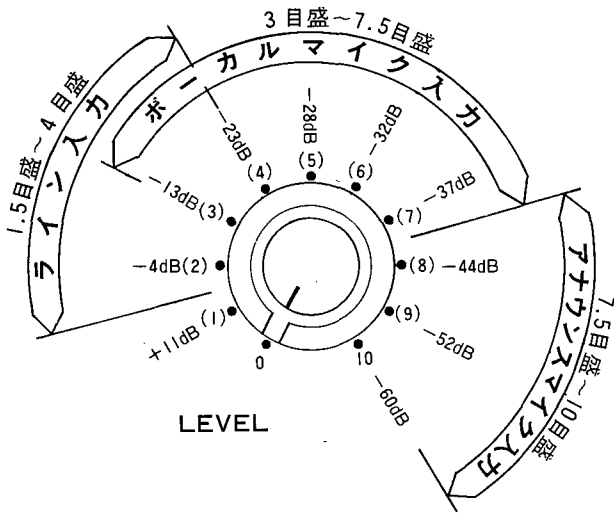
代表的な特性



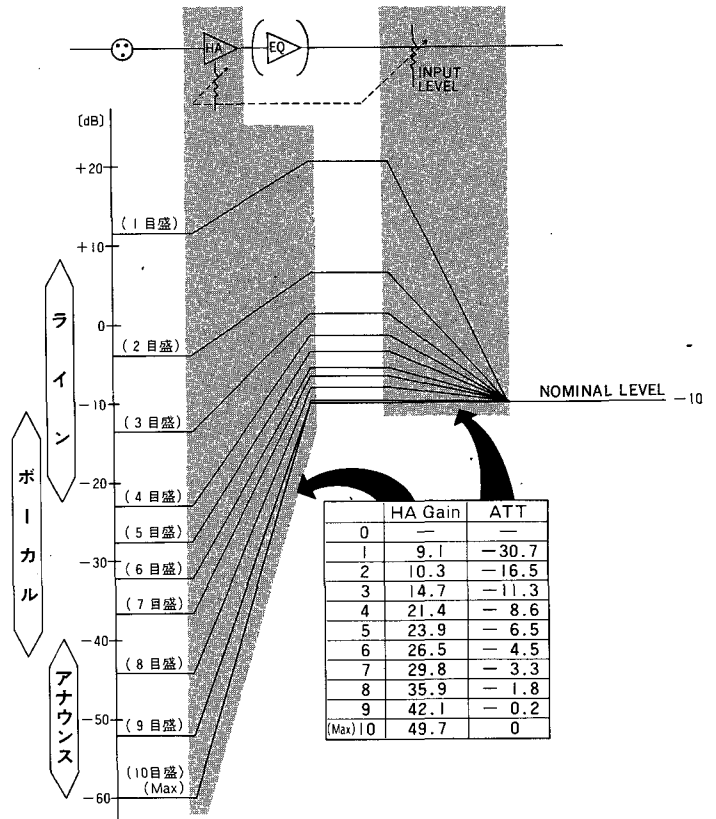
入力音量つまみのレベル適合ポジションについて

連動調整できるデュアルレベルコントロール機能により、入力ゲインとメインセクション送り出しレベルの調整が簡単にできるようになっています。

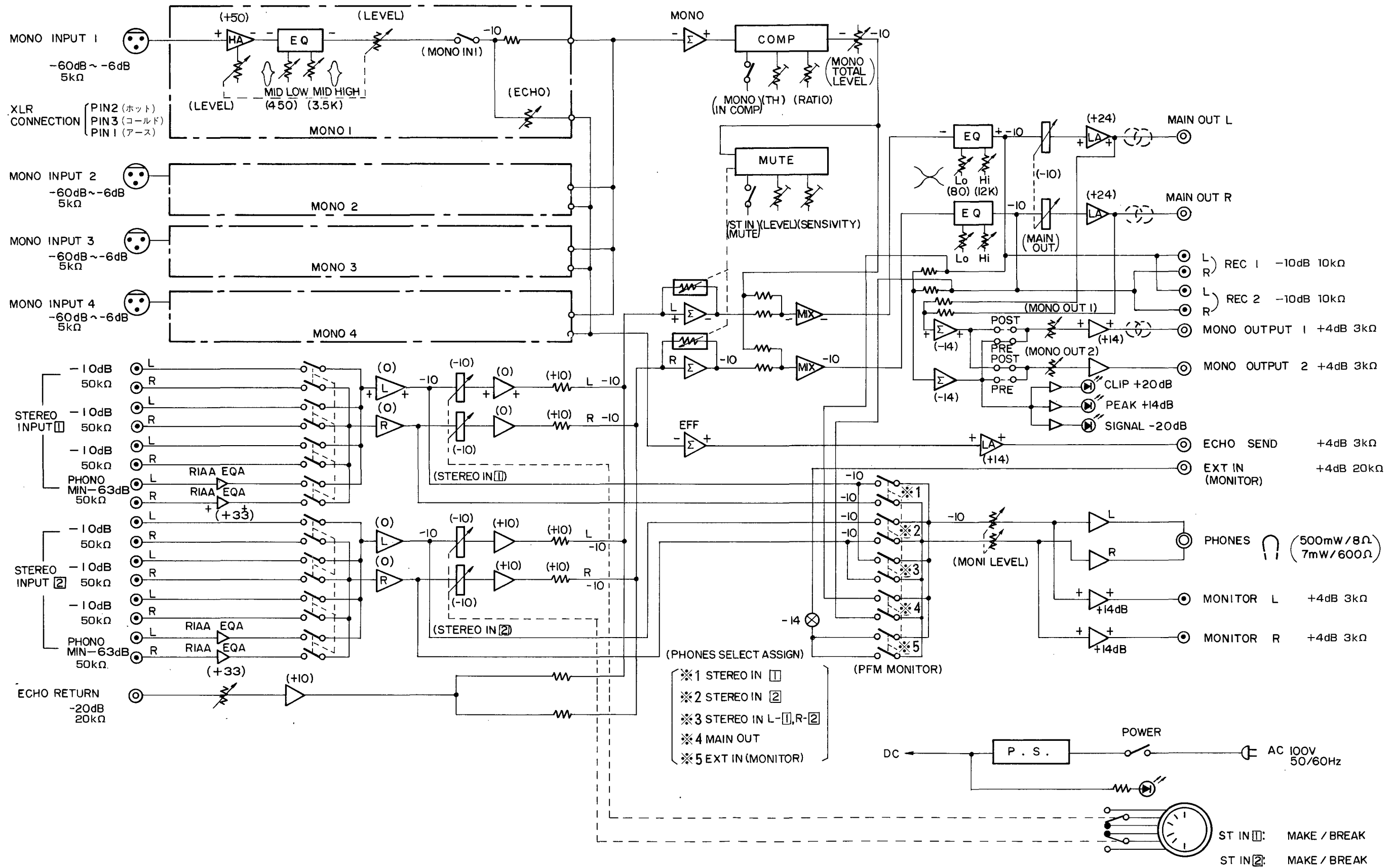
●レベル適合ポジションの目安



●レベルダイヤグラム



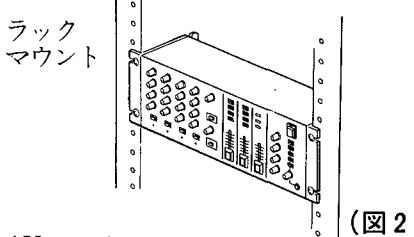
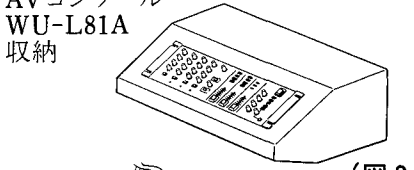
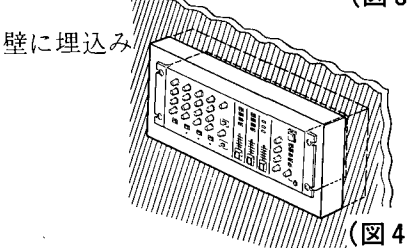
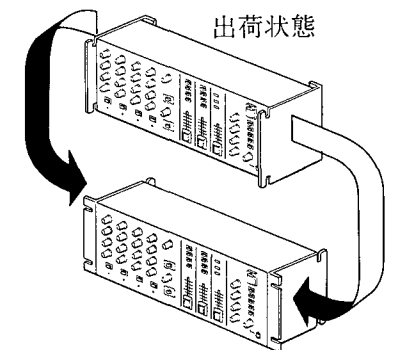
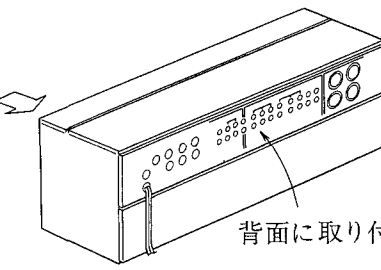
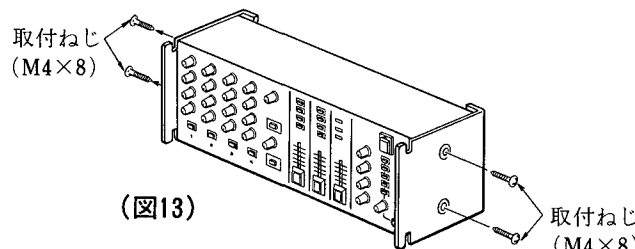
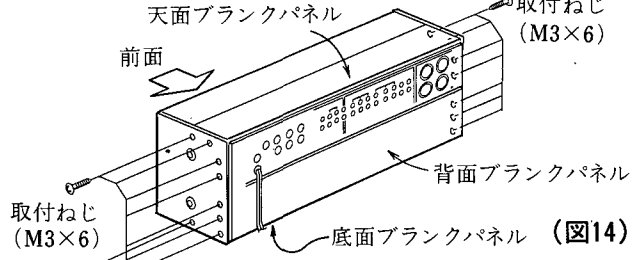
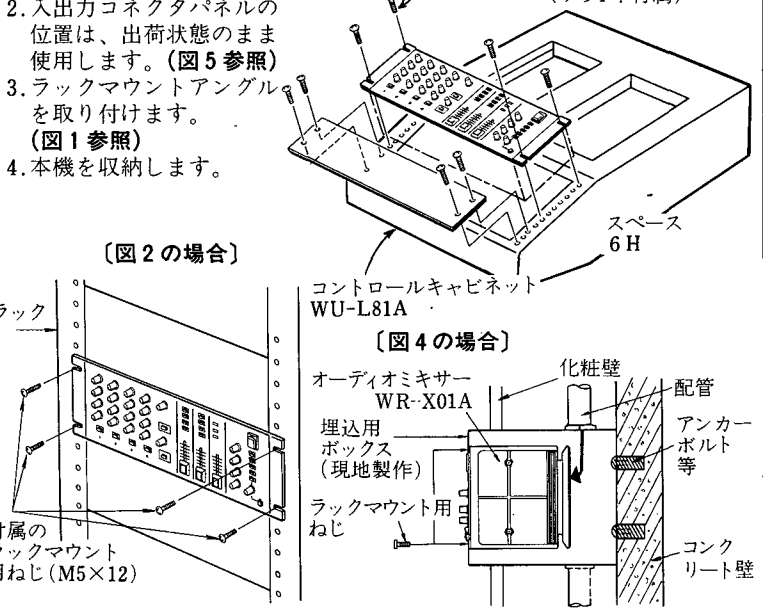
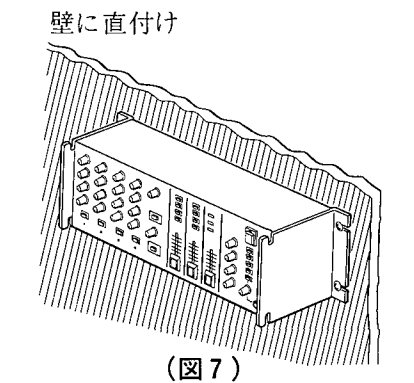
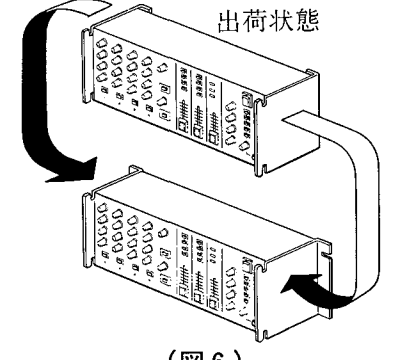
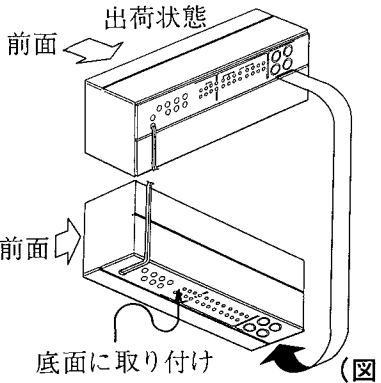
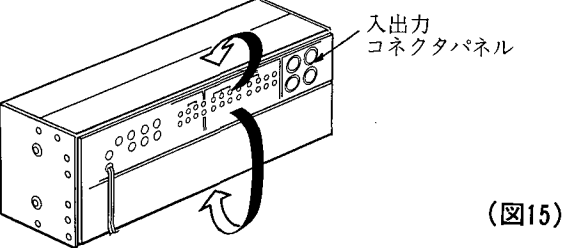
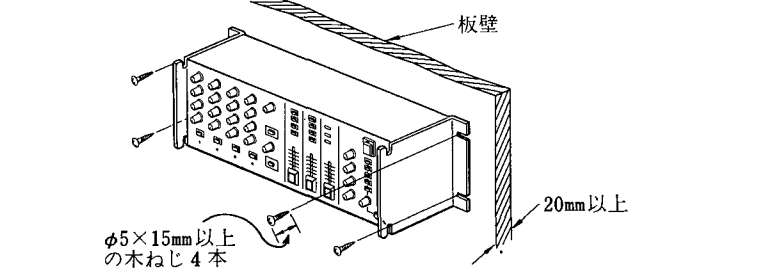
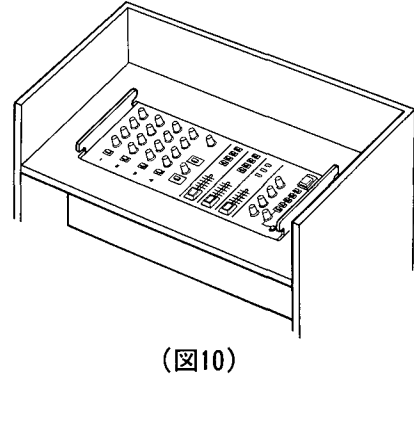
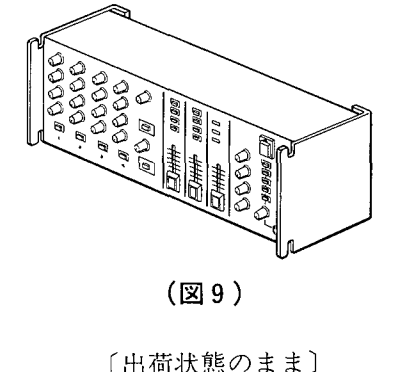
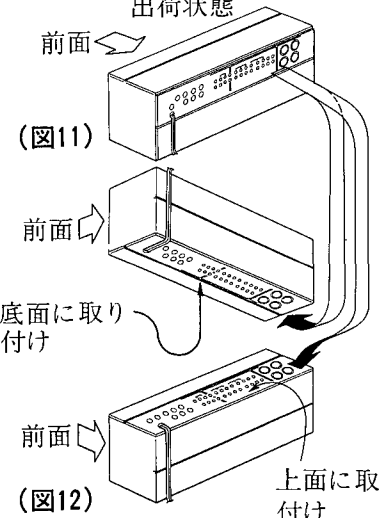
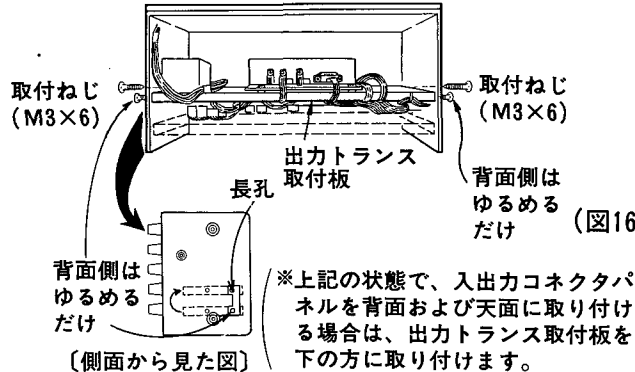
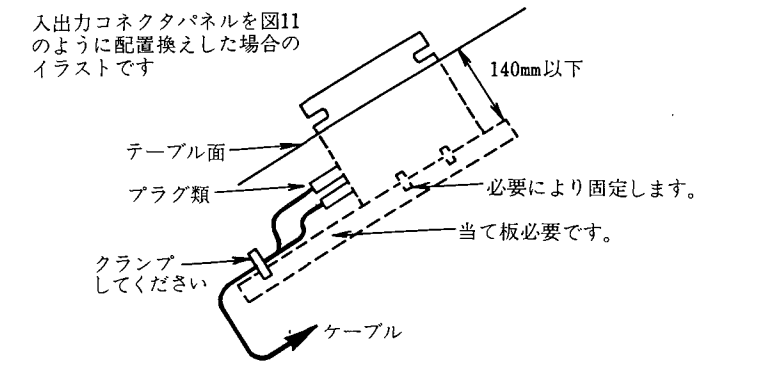
ブロックダイアグラム



工事説明

本機の工事は、必ず販売店に依頼してください。また、工事の場合は、必ず電源スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。

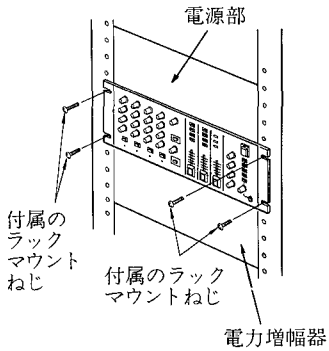
設置のしかた

	設置場所	ラックマウントアングルの使用方法	入出力コネクタパネルの使用方法	外しかた・配置換えの方法	手順 (出荷状態を基に説明します。)
<p>例</p> <p>1</p>	<p>ラックマウント</p>  (図2) <p>AVコンソール WU-L81A 収納</p>  (図3) <p>壁に埋込み</p>  (図4)	<p>出荷状態</p>  (図1)	<p>背面に取り付け</p>  (図5) <p>〔出荷状態のまま〕</p>	<p>■ラックマウントアングルの外しかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●取付ねじを外します。  (図13) <p>■ブランクパネル、入出力コネクタの外しかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●取付ねじを配置換えに関する部分のみ外します。  (図14)	<p>1. ラックマウントアングルを外します。(図13参照)</p> <p>2. 入出力コネクタパネルの位置は、出荷状態のまま使用します。(図5参照)</p> <p>3. ラックマウントアングルを取り付けます。(図1参照)</p> <p>4. 本機を収納します。</p>  <p>〔図3の場合〕 ラックマウント用ねじ 8本 (うち4本付属)</p> <p>〔図2の場合〕 ラック</p> <p>コントロールキャビネット WU-L81A</p> <p>〔図4の場合〕 オーディオミキサー WR-X01A 化粧壁 配管 アンカーボルト等 埋込用ボックス (現地製作) ラックマウント用ねじ 付属のラックマウント用ねじ (M5×12) スペース 6H コンクリート壁</p>
<p>例</p> <p>2</p>	<p>壁に直付け</p>  (図7)	<p>出荷状態</p>  (図6)	<p>前面</p> <p>前面</p> <p>底面に取り付け</p>  (図8)	<p>■ブランクパネル、入出力コネクタの外しかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●取付ねじを配置換えに関する部分のみ外します。 <p>■入出力コネクタの配置換えのしかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●図のような範囲で配置換えできます。  (図15)	<p>1. ラックマウントアングルを外します。(図13参照)</p> <p>2. 入出力コネクタパネルの位置を底面に換えます。(図8参照)</p> <p>3. ラックマウントアングルを取り付けます。(図6参照)</p> <p>4. 板壁に直付けします。</p>  <p>板壁</p> <p>20mm以上</p> <p>φ5×15mm以上の木ねじ4本</p>
<p>例</p> <p>3</p>	<p>テーブルに埋込み</p>  (図10)	<p>出荷状態</p>  (図9) <p>〔出荷状態のまま〕</p>	<p>前面</p> <p>前面</p> <p>底面に取り付け</p> <p>前面</p> <p>上面に取り付け</p>  (図11, 図12)	<p>■入出力コネクタの配置換えのしかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ●図のような範囲で配置換えできます。 <p>■底面への配置換えの場合は、出力トランス取付板の位置移動が必要です。</p>  (図16)	<p>1. ラックマウントアングルを外します。(図13参照)</p> <p>2. 入出力コネクタパネルの位置を底面または、上面に換えます。(図11、12参照)</p> <p>3. ラックマウントアングルを出荷状態と同じに取り付けます。</p> <p>4. テーブルに埋め込みます。</p> <p>入出力コネクタパネルを図11のように配置換えした場合のイラストです</p>  <p>140mm以下</p> <p>テーブル面</p> <p>プラグ類</p> <p>必要により固定します。</p> <p>当て板が必要です。</p> <p>クランプしてください</p> <p>ケーブル</p>

ご 注 意

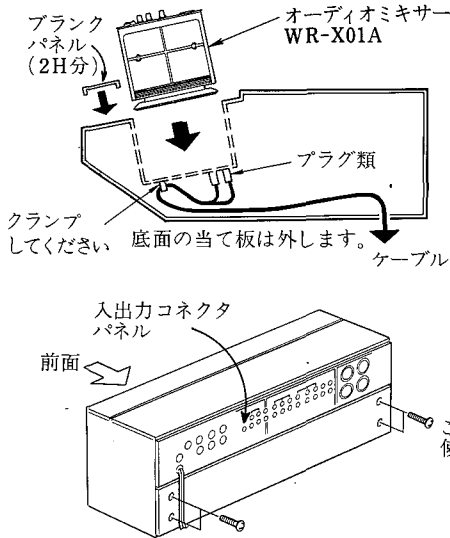
■ラックマウントについて

- ラックに取り付ける場合、電力増幅器や容量の大きい電源部等の上は、加熱や電源ハム等の悪影響を受けますので避けてください。



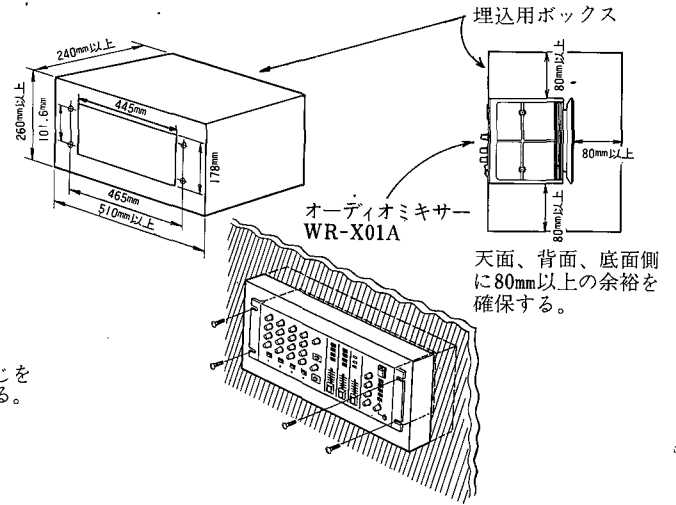
■AVコンソールについて

- 外部からの接続ケーブルは、背面パネルのねじを使用してクランプしてください。



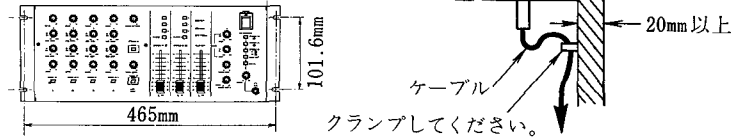
■壁埋込みについて

- 現地にてボックスの製作が必要です。
- ボックスに板を使用する場合、板厚により、付属のラックマウント用ねじでは取り付けられない場合があります。その際は別途、取付ねじを用意してください。



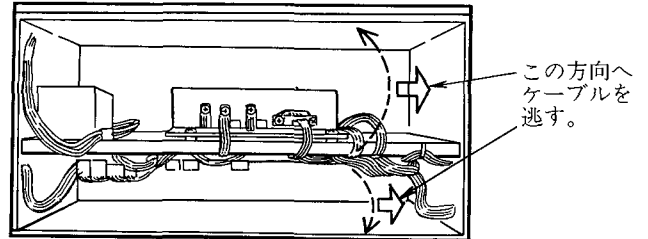
- 取り付け場所は、しっかりした柱や、板厚20mm以上の板壁に木ねじ（長さ15mm以上）または板壁用アンカーボルト等で取り付けてください。
- ボード製の間仕切り程度に使用されている壁等への取り付けは絶対に避けてください。
- 外部の接続ケーブルは、板壁等にクランプしてください。

- ご注意**
- 十分な保持力が確保できる取り付け構造にしてください。

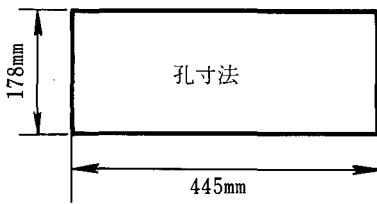


■入力コネクタパネルを取り付ける場合、内部ケーブル処理に注意してください。

- 内部ケーブルは、電源トランスや放熱板を避け、束線を移動してから、入力コネクタパネルを取り付けてください。
- 内部ケーブルが、部品に引っかかったり、入力コネクタパネルではさみ込まないようにしてください。



- 現地にてテーブルに孔を開ける必要があります。



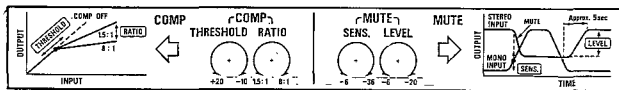
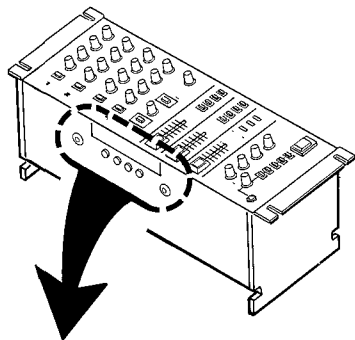
調整のしかた (調整の必要がある場合)

■モノインプットコンプレッサ (COMP)の調整

※モノインプットコンプレッサスイッチを“ON”にしておくと、モノラル入力に過大入力が入った場合、出力側に音をひずませないで送り出してやるために、過大入力信号を圧縮して出力させます。この場合の、過大入力の圧縮開始点をスレッシュولدボリューム (THRESHOLD)で調整し、圧縮開始点を越えた入力の圧縮比率(入力レベル：出力レベル)をレシオボリューム (RATIO)で調整します。

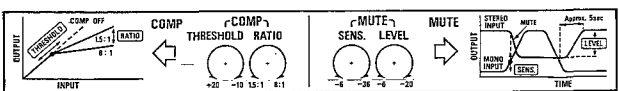
●スレッシュولدボリューム (THRESHOLD)とレシオボリューム (RATIO)の調整

- ①モノインプットコンプレッサスイッチを“ON”にします。
- ②モノラルインプットへマイクで大きな声を入力し、スピーカで音を聞きながら、スレッシュولدボリュームを回して圧縮開始点を設定します。右に回すほど、入力レベルの低いところで圧縮が開始されます。



スレッシュولد → ⊕ ○ ○ ○
ボリューム

- ③レシオボリュームを回して、圧縮比率を設定します。右に回すほど大きく圧縮されます。



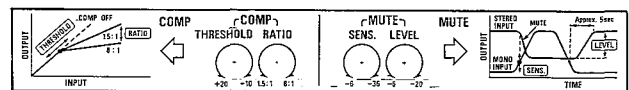
○ ⊕ ○ ○ ○
↑
レシオボリューム

■ステレオインプットミュート (MUTE)の調整

※ステレオインプットミュートスイッチを“ON”にしておくと、ステレオ入力から音楽信号が出力へ送り出されている場合、モノラル入力が入ると、ステレオ入力の音楽信号を自動的に下げ、モノラル入力が優先されて出力されます。この場合の、モノラル入力が、どの位の入力レベルでステレオ入力を下げるかをセンスボリューム (SENS)調整し、ステレオ入力レベルをどの位下げるかをレベルボリューム (LEVEL)で調整します。

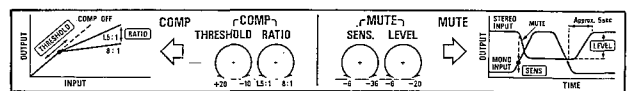
●センスボリューム (SENS.)とレベルボリューム (LEVEL)の調整

- ①ステレオ入力ジャックから音楽信号を入力します。
- ②ステレオインプットミュートスイッチを“ON”にします。
- ③モノラルインプットへマイクで音声を入力し、どの位の入力で、音楽信号を下げるか、センスボリュームを回して調整します。右に回すほど、低いモノラル入力でステレオ入力が下がります。



○ ○ ⊕ ○ ○
↑
センスボリューム

- ④ステレオ入力をどの位下げるか、レベルボリュームを回して調整します。右へ回すほど下がるレベルは大きくなります。

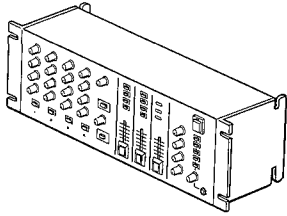


○ ○ ○ ⊕ ○ ○
↑
レベルボリューム

メイン出力L・Rおよびモノラル出力1を平衡回路に変更する場合

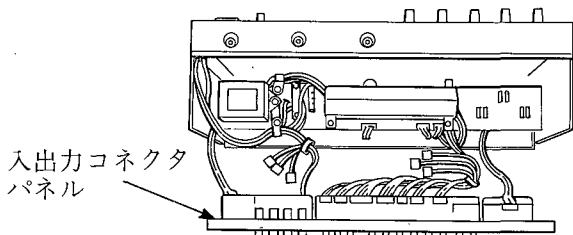
※出力トランス (品番 A0EA0001B3) をご用意ください。

①本機を設置場所から外します。

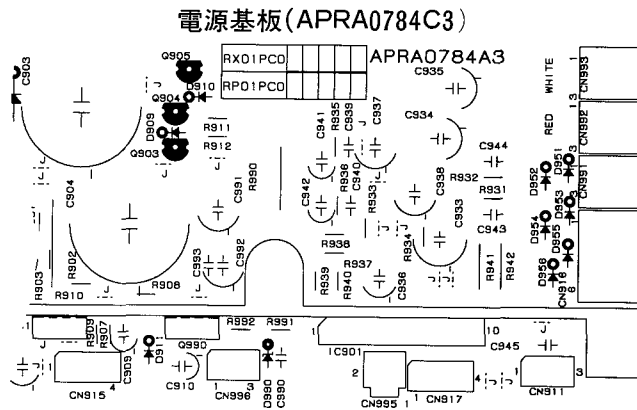


②ラックマウントアングルと入出力コネクタパネルを外します。

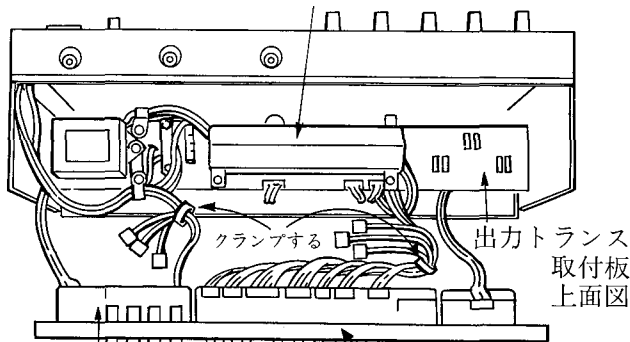
(設置場所により、入出力コネクタパネルの取付位置が異なりますので、作業のしやすいように、ブラックパネルを外してください。)



③電源基板(APRA0784 C3)のコネクタCN991(メインL用)、CN992(メインR用)、CN993(モノ1用)を外し、じゃまにならない場所にコネクタケーブルをクランプします。

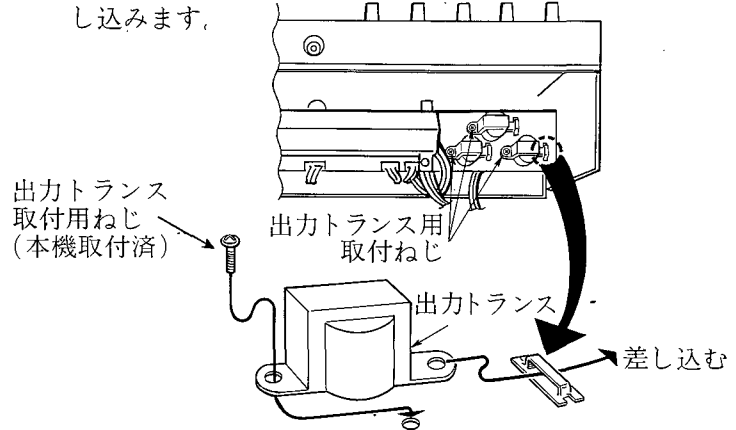


④出力ジャック基板(APRA0786 C4)のコネクタCN91(メインL用)、CN92(メインR用)、CN93(モノ1用)を外し、じゃまにならない場所にコネクタケーブルをクランプします。

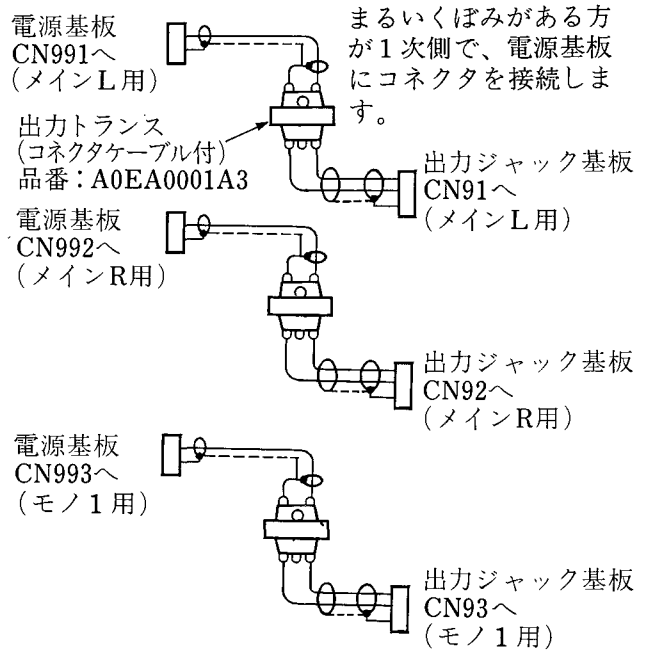


出力ジャック基板 (APRA0786 C4) 入出力コネクタパネル

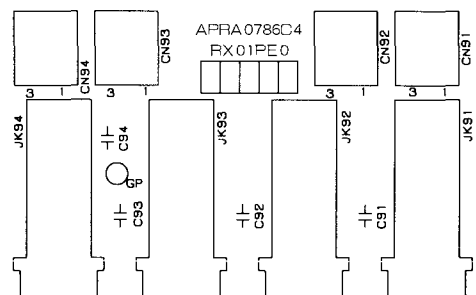
⑤本機取付済の出力トランス取付用ねじを外し、出力トランスを取付けます。
※トランス1個に対し、ねじ1本で止め、片側は差し込みます。



⑥出力トランスのコネクタを電源基板(APRA0784 C3)と出力ジャック基板 (APRA0786 C4)のコネクタに接続します。

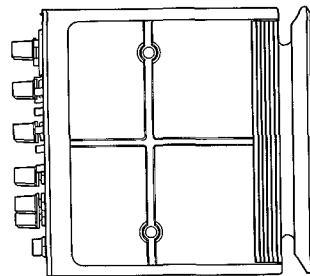
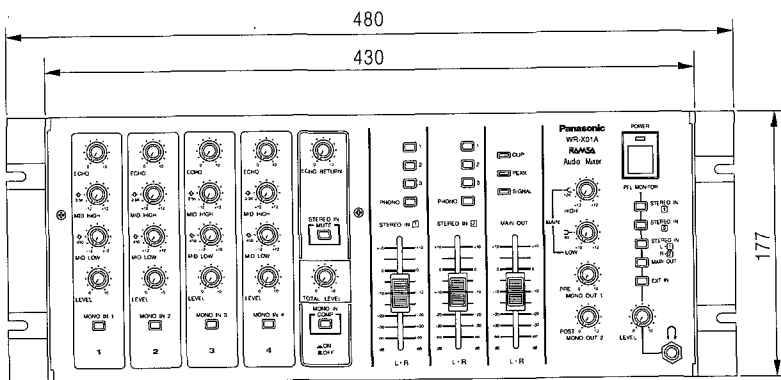
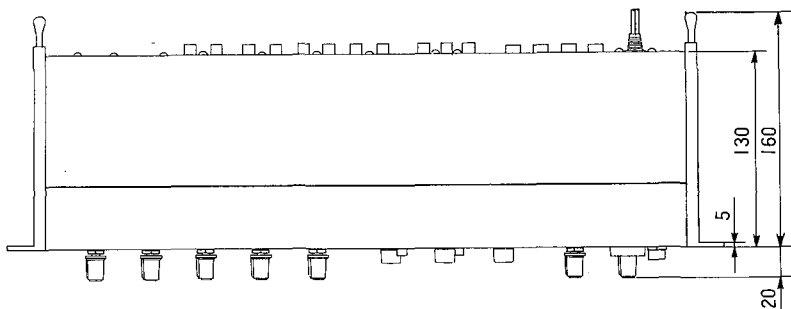
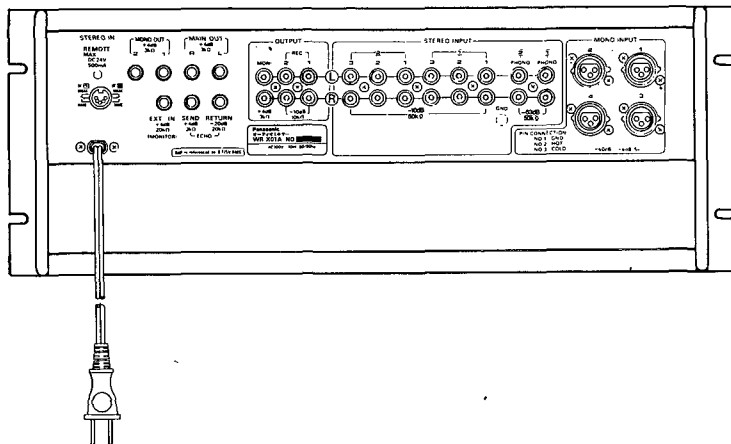


出力ジャック基板 (APRA0786 C4)



外觀寸法図

※この図はラックマウント時の寸法図です。



定格

電源：AC 100V 50/60Hz
消費電力(注)：約10W
周波数特性：20Hz～20kHz $\pm 0.5\text{dB}$ [出力トランス(別売)なし]
50Hz～15kHz $\pm 0.5\text{dB}$ [出力トランス(別売)付]
全高調波ひずみ：0.1%以下 (+18dB出力 20Hz～20kHz MAIN OUTPUT)
混変調ひずみ：0.1%以下 (+18dB出力 20Hz～20kHz MAIN OUTPUT)
入力換算雑音：-125dB以下 (MONO INPUT 150 Ω ターミネート、MAIN OUTPUT IHF "A" WTD)
-114dB以下 (PHONO INPUT ショート、MAIN OUTPUT IHF "A" WTD)
残留雑音：85dB以下 (全てのボリューム及びフェーダ絞り切り)
最大出力：+20dB
クロストーク：65dB以下 (1kHz)
同相除去比：60dB [1kHz (基準値)]
最大利得：74dB Mono INPUT/34dB STEREO INPUT
入力回路
モノラル入力1～4：-60～-6dB (最大 -70～+10dB) 5k Ω 電子バランス 4回路 [キャノンタイプコネクタ(XLR-3-31相当)]
ステレオ入力①②：-10dB 50k Ω 不平衡 ステレオ入力 (L/R) 6回路 (ピンジャック)
フォノ入力①②：MIN -63dB 50k Ω 不平衡 ステレオ入力 (L/R) 2回路 (ピンジャック)
外部モニタ入力：+4dB 20k Ω 不平衡 モノラル入力 1回路 (単式ジャック)
エコーリターン入力：-20dB 20k Ω 不平衡 モノラル入力 1回路 (単式ジャック)
出力回路
メイン出力：+4dB 3k Ω 不平衡 ステレオ出力 (L/R) 1回路 (複式ジャック)
モノラル1出力：+4dB 3k Ω 不平衡 モノラル出力 1回路 (複式ジャック)
モニター出力：+4dB 3k Ω 不平衡 ステレオ出力 (L/R) 1回路 (ピンジャック)
エコーセンド出力：+4dB 3k Ω 不平衡 モノラル出力 1回路 (単式ジャック)
モノラル2出力：+4dB 3k Ω 不平衡 モノラル出力 1回路 (単式ジャック)
録音出力：-10dB 10k Ω 不平衡 ステレオ出力 (L/R) 2回路 (ピンジャック)
ヘッドホン：500mW+500mW 8 Ω 不平衡 ステレオ出力 (L/R) 1回路 (複式ジャック)
モノラル入力イコライザ：450Hz $\pm 12\text{dB}$ (MID LOW)・3.5kHz $\pm 12\text{dB}$ (MID HIGH) ピーク/ディップ
メイン出力イコライザ：80Hz $\pm 12\text{dB}$ (LOW)・12kHz $\pm 12\text{dB}$ (HIGH) シェルビング
モノラルインプットコンプレッサ：標準感度 (サミングポイント) +20～-10dB (可変)
標準レシオ 1.5:1～8:1 (可変)
ステレオインプットミュート：標準感度 (サミングポイント) -6～-36dB (可変)
標準減衰量 -6～-20dB (可変)
LEDインジケータ：CLIP +20dBで点灯、赤色LED
(プリフェーダレベル) PEAK +14dBで点灯、橙色LED
SIGNAL -20dBで点灯、緑色LED
リモート回路：メーク/ブレイク接点 (トランスファ接点) 2回路 8P DINコネクタジャック 制御容量 DC 24V 500mA
寸法：444(幅)×177(高さ)×160(奥行) mm (出荷状態の寸法です。)
質量：約6kg
仕上げ：操作パネル :
入出力コネクタパネル :
天面ブランクパネル : } スモークドブラウン
背面ブランクパネル : } (マンセルNo. 10YR3/1近似色)
底面ブランクパネル : }
ラックマウントアングル：黒色半つや (アルミダイキャスト)
前面カバー：グレースモーク (アクリル)

(注) この表示は、「電気用品安全法技術基準」に基づくものです。

付属品

- アクリルカバー..... |
- 接続機器表示ラベル..... |
- ラックマウント用ねじ(M5×12) 4
- REMOTE用 8P DIN コネクタ..... |

保証とアフターサービス (よくお読みください)

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください。

- 修理はサービス会社・販売会社の「修理相談窓口」へ！

■保証書(別添付)

必ず、お買い上げの販売店からお買い上げ日・販売店名などの記入をお確かめのうえ受け取り、よくお読みのあと、大切に保管してください。

保証期間：お買い上げ日から1年間

■修理を依頼される時

まず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店が修理させていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる商品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品番	WR-X01A
	販売店名	電話 ()	-			

松下電器産業株式会社

ブロードメディア本部

〒223-8639 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号

電話 フリーダイヤル 0120-878-410